

## 第 40 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	青木ゼミⅡ
<b>チーム名</b>	KO—MAN
<b>タイトル</b>	観光と産業のグローバル化と日本経済
<b>テーマ群</b>	d)国際経済
<b>メンバー</b>	◎森 大和 石原 拓弥 高見 晋平 石田 哲也 尾下 雄哉 廣岡 直樹 江本 治良
<b>研究計画内容</b>	<p>日本は 1993 年に国民一人当たり国内総生産（名目 GDP）が世界第 2 位であったが、徐々に下落を続け、IMF 発表で、2008 年推計は 22 位まで低下した。高齢化社会到来と共に日本衰退の兆しが見える。また、雇用問題も 2008 年以降、世界金融危機に伴う景気悪化によって失業率が戦後最高水準にまで上昇し、内定取り消しや失業が社会問題化している。</p> <p>こうした、日本の抱える経済問題の改善策として今年六月、日本政府は閣議決定で新成長戦略を打ち出した。我々はその中のフロンティア開拓に視点を当て観光と地域の活性化を目指すための道筋を三つの項目で紹介したい。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 日本の観光分野における経済効果と国際的地位 2009 年の日本人の出国者数が 1580 万人に比べ、日本に来た外国人の数は 4 1 0 万人と圧倒的に世界に遅れをとっている。</li><li>2 LCC（格安航空）などによる外国人観光客の受け入れ整備 航空産業はグローバルな事業でありながらも、路線や運賃、使用空港の規制が強く、特に日本では国際競争力が十分に育ってこなかった経緯がある。</li><li>3 魅力ある観光立国〔日本〕を作るためのターゲット確保 日本政府観光局〔JNTO〕による観光外客数は 2 0 0 9 年アジアが最も多く 4 8 1 万 4 0 0 1 人である。国別にみると韓国が一番で、アジア人観光客の受け入れ強化が急務である。</li></ol>

